

令和4年度 町内会長等と市長との懇談会 実施報告書

1 目的

市政情報の発信とともに町内会長等から地域の課題や提言をいただき、各施策に反映させることを目的に、市内を東西南北の4地区に分け、市役所本庁舎庁議室と各行政センター等をウェブ会議システムで接続する「ネット懇談会」を開催しました。

2 開催日・地区

開催回	開催日	開催地区
第1回	令和4年10月6日(木)	【南地区】 郡山中央(南・中)、安積、三穂田
第2回	令和4年10月21日(金)	【西地区】 郡山中央(西)、逢瀬、片平、湖南
第3回	令和4年11月10日(木)	【北地区】 郡山中央(北)、喜久田、日和田、富久山、熱海
第4回	令和4年11月25日(金)	【東地区】 郡山中央(東)、田村、西田、中田

3 参加者

町内会連合会、地域の各種関係団体、市長、副市長、各部局長、市議会議員（オブザーバー参加）

4 懇談テーマ

- ①「ベビーファースト」(子育て支援活動)
- ②「スクールファースト」(学校活動への協力・支援)
- ③「平時・災害時における対口支援(たいこうしえん)」
- ④「地域活動」

上記のテーマから選択



セーフコミュニティ郡山
2018.2.2 セーフコミュニティ国際認証取得
2023.2.4 セーフコミュニティ国際認証再取得

「オールあさか被災者支援事業」について

【安積地区】発表者（敬称略）

安積町自治会長会 会長 八代 實、副会長 長沼 伸、副会長 増子 要二

概要

- 令和元年東日本台風による水害をきっかけに、有事に備え、安積地区内の30の町内会が連携して支え合う体制を整備した。

活動内容

- 被災状況に応じて、①安積地区内で被災していない町内会に対する義援金の協力依頼、②被災した町内会への義援金の贈呈、③地域の各種団体等が実施する各種支援への協力（民生児童委員、地区社会福祉協議会、保健委員会等）などを実施している。
- 被災した町内会を支援する「災害特別積立金」を創設した。
- 災害時、各町内会の被害状況等の情報を安積町自治会長会で集約し、必要に応じて救助要請や支援活動等を実施する。



支援物資配布の様子



集会所での炊きだしの様子



義援金贈呈時の様子

市コメント

- 本市でも災害時の被害を最小化にする減災の考え方を防災の基本方針として、様々な対策を組み合わせ、災害に備えており、平時からの取組は極めて重要と考えています。
- 最近では災害が激甚化、頻発化し、警報も頻繁に出ているという状況にありますが、行政の対策だけではなかなか対応が追いつかない状況もあり、今までの行政サービスの提供から行政サポートという方向にシフトしている状況の中で、安積町自治会の皆様の共助の先駆的な取組は、非常に重要と考えます。
- 各地域の情報をどのようにして迅速に共有するかという課題は、難しいと感じており、研究していきたいと思っております。

「新入学児童の学校適応サポート」について

【郡山中央（中）地区】発表者（敬称略）

橘方部町内会連合会 会長 日下 俊一郎

概要

- ・小学校の新入児童が、新しい環境下で心が不安定になり、学校生活に馴染めない状況から、平成 20（2008）年度より橘小学校の新 1 年生を対象に橘地域公民館と協働によるサポート活動を実施している。

活動内容

- ・橘小学校からのサポート要望に応じて派遣や支援計画などの調整を行い、学級にボランティアを 1 名配置している。
- ・橘地域公民館が、ボランティアの登録などを担当しており、現在（令和 4 年 10 月現在）の登録者数は、25 名で民生・児童委員やその経験者が中心となっている。
- ・サポート期間は、基本的に 4 月初めから 4 月までの 1 か月で、登校時から下校時までサポートを実施している。
- ・派遣ボランティアは、学習時間の活動支援や給食の配膳・片付けの支援、休み時間等の担任教師が不在時の見守りや下校時の安全指導の支援などを実施している。

市コメント

- ・橘地域の皆様の取組みは、小学校に入学したばかりの小学校 1 年生が、なかなか学校になじめず席に座っていることや集団行動が難しい状態になる「小 1 プロブレム」の解消に効果的であると感じました。
- ・入学後の 1 か月間だけでなく、生活科の学習等で地域の方に昔遊びを教えていただくなど、子供たちと地域の皆様の交流が図られ、大変ありがたく感じています。
- ・今後、学校運営協議会のさらなる充実を図りながら、新入学児童の学校適応サポートをはじめ、地域とともにある学校づくりを推進していきたいと考えています。
- ・子どもたちが教育を受けられる環境を確保することは重要であると認識しており、環境確保には、学校と保護者がお互いをサポートし合える関係性を構築することも必要と考えますので、学校保健委員会の活用など、教育委員会とも相談していきたいと思っております。

のびのび子育てサロン『みぽたんクラブ』について

【三穂田地区】発表者（敬称略）

三穂田区長会 会長 佐藤 惣一、副会長 安藤 与一、会計 小林 喜正
三穂田地区社会福祉協議会 会長 芦名 房雄

概要

- 子育てサロンは、郡山市社会福祉協議会が推進している活動で、各地区の社会福祉協議会と町内会等と協働で取り組んでいる。
- 近年の少子高齢化の進行や育児に不安を抱えている人の増加により、孤立しがちな子育て家庭を地域で支援するため、子育ての仲間づくりを行う支え合いの活動である。

取組内容

- 参加者がそれぞれの興味や関心に合わせて自由な考えでプログラムをつくり、子育ての情報交換やお悩み相談、親子がふれあえる遊び等の体験活動を実施している。
- 親子で楽しめる活動として、就学前のお子さんと保護者を対象に、体操やおもちゃ作りなどを行っている。
- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、参加型の活動は控え、未就学児のいる家庭や地域の幼稚園児にお菓子等を配布する活動実施している。



お菓子の手渡しの様子



親子での手遊び運動の様子

市コメント

- すべての子育て世代が、安心して子供を産み育てることができる環境づくりをさらに推進するとともに、子供の成育段階に応じた子育て支援や若い世代の希望実現などについて、オール郡山でベビーファーストの取組みを推進します。
- 若年層の人口減少は各地区共通の課題で、18歳人口が3千人、0歳児が2千人という状況の中で、子どもたちが安全に元気に育ってもらうためにはどうしたらよいか研究していかなければならないと感じました。

小原田地域における防災の取り組みについて

【郡山中央（南）地区】（敬称略）

小原田自治連合会 会長 宮田 孝一、副会長 越田 敏和

概要

- ・小原田地域は阿武隈川に近いことから、昭和 61（1986）年、平成 23（2011）年、令和元（2019）年など、東部幹線沿いを中心とした浸水により被害が発生している。
- ・郡山市のハザードマップでは、小原田地域のほぼ全域が浸水地域と位置付けられていることから、人的被害を出さないための必要な取り組みを行っている。

取組内容

- ・「水害が想定される地域である」という認識の共有化を図るため、講習会を開催し、避難に関する基礎知識を学んでいる。
- ・町内会役員と民生委員が連携し、高齢者世帯への声掛けや被害状況の把握を行っている。
- ・昭和第一町会では、避難困難者の一時的避難先としてマンションの集会室等へ垂直避難できるように地域のマンション管理組合との協力体制を整えている。
- ・地域防災力の強化のため、「郡山市防災士養成研修講座」へ参加し、防災士の資格を取得するなど、防災リーダーの育成に取り組んでいる。



令和元（2019）年の水害の様子



講習会の様子

市コメント

- ・防災士の育成など、主体的に様々な取り組みを実施されていることは、自助、共助の側面からも大変心強かったです。
- ・高齢者世帯への訪問など町内会と連携した取り組みは、防災のみならず地域福祉の推進、さらには民生委員の負担軽減にも繋がる活動であり、大変ありがたく感じました。
- ・小原田地域の防災の取り組みの中で、防災士の話がありましたが、市の防災関係のシステムあるいは講座について、防災士の資格を取られた方のご意見も参考にさせていただきたいと思いました。

学校活動への協力・支援事業の推進について

【湖南地区】発表者（敬称略）

湖南町区長会 会長 佐藤 宗良、副会長 小原 博、副会長 村松 千尋
庶務 鈴木 泰夫

概要

- SDGs の考え方に基づき、誰ひとり取り残さない持続可能な地域づくりには、学校活動への協力・支援事業の取組が大切と考えた。
- 湖南小中学校の活動への協力・支援体制は、公民館を事務局とし、青少年健全育成地区協議会、ぐるっと湖南伝承会などの湖南町の各種団体が連携して行っている。

活動内容

- 湖南小中学校の児童生徒に郷土の歴史等を知ってもらうため、町内の文化財や名所旧跡を見学する「ぐるっと湖南めぐり」事業を実施している。
- 見学先の安全対策として、事前に草刈りの実施など、整備している。
- 警察や各道路管理者、市担当課、地区交通安全協会と合同で通学路安全点検を実施し、危険箇所の意見交換等により情報共有を行っている。
- 今後も、湖南町区長会が中心となり、地元の学校運営協議会と連携しながら、学校の各種行事の支援に取り組んでいきたい。



ぐるっと湖南めぐり準備作業



ぐるっと湖南めぐりの様子

市コメント

- ぐるっと湖南めぐりは、公民館事業として始まり、現在は町おこしのグラウンドとして、子どもたちを含めた多くの方々の協力のもと事業を展開し、大変心強く感じています。
- 教育委員会では、地域の皆様の参画を得まして、地域全体で子どもたちの学びの場や成長を支えるとともに、学校活動の充実や持続可能な地域づくりを目指していきたいと考えています。
- 活動区域について、町内会単位を基本としていますが、これからは、公民館の区域単位で公民館を各地域の繋ぎの場所として活動していくことも地域の課題解決に有効なものと思います。

片平町におけるコロナ禍の事業等取組状況について

【片平地区】発表者（敬称略）

片平町区長等連絡協議会 会長 鹿又 進

概要

- 令和2（2020）年度以降、町内の全ての団体が活動の自粛や中止を余儀なくされている中、感染防止対策を講じながら、各種事業を実施している。

活動内容

- 母親と赤ちゃんのふれあう機会や母親同士の情報交換の場となる「リフレッシュサロン」を年4回開催するなどの子育て支援活動を実施している。
- 学校が開催する運営会議や通学路合同点検へ参加するなど、子どもたちの事故防止のため、学校との連携を密にして協力・支援活動を実施している。
- 活動の際は、マスク着用、三密回避、検温・消毒の実施など、徹底した感染防止対策の実施や規模縮小するなど、工夫しながら活動を継続している。



リフレッシュサロンの様子



通学路合同点検の様子

市コメント

- ワクチン接種をしても感染する可能性はありますので、こまめな手洗い、手指消毒、換気、マスクの着用など、状況に応じて必要な感染対策をお願いします。
- 本市では、妊娠、出産から子育て期に渡り、切れ目のないきめ細やかな支援を行うため、ニコニコ子ども館と安積、片平、富久山の各行政センターに母子保健コーディネーターとして助産師を配置し、サポートを実施しています。
- 学校安全保健法により、学校に学校保健委員会が設置され、子どもの問題などを地域の皆さんも参加して一緒に考えていくという動きになっていきますので、学校区単位での活動も有効なものと思います。

持続可能な地域づくりと地域活性化について

【逢瀬地区】発表者（敬称略）

逢瀬町区長会 会長 柳沼 孝一、副会長 佐藤 弘永

概要

- ・住民の減少や高齢化、コロナ禍の影響により、各種団体の活動継続が難しい状況となっている。
- ・令和4（2022）年からは、地域資産の保存や文化の継承するため、「できることから始めていこう」と考え、地域コミュニティの維持及び地域活性化を図るため、3年ぶりに地域行事を一部再開した。

活動内容

- ・「おうせ夏まつり」を開催し、感染防止対策を行いながら、太鼓打ち体験や盆踊りなど賑やかな催しとなった。
- ・逢瀬町区長会と防災連絡協議会が合同で山形県防災学習館や新潟防災センターの視察研修を実施した。
- ・令和元（2019）年に台風で中止になって以来、4年ぶりに「浄土松公園まつり」を開催し、規模を縮小しての開催であったが、来場者で賑わった。



おうせ夏まつりの様子



視察研修の様子



浄土松公園まつりの様子

市コメント

- ・地区の人口減少やコロナ禍など、難しい状況下での「できることから始めていこう」という姿勢は、地域力を高める上で重要と感じました。
- ・本市では、令和2年度から外国人目線を取り入れたふるさとづくり事業を展開しており、今後も交流機会の創出や賑わいの再活性化に繋がる事業を展開していきたい。
- ・行政区や町内会単位でお祭りやイベントなど地域活動を実施されていますが、その時に同じ地域の人だけが顔を合わせるのではなく、お互いに町内会同士で案内し合うなど、平日頃から交流することにより、災害等の緊急時における円滑な連携体制の構築に繋がるものと思います。

子どもの見守り活動について

【郡山中央（西）地区】発表者（敬称略）

小山田地区町内会連合会 会長 遠藤 正一、副会長 古川 尊規

概要

- 郡山市青少年健全育成協議会主催の「少年の主張」での「高速道路の下の道を通るのが怖い」という発表をきっかけに、令和元（2019）年8月に「子ども見守り隊」を結成し、小山田小学校児童の登下校時の安全確保のため、見守り活動を実施している。

活動内容

- 横断歩道などの危険個所を中心に定点での見守りのほか、特に下校時においては1、2年生の児童と一緒に集団下校を実施し、見守り体制を強化している。
- 「明るいまちづくり推進委員会」が中心となり、地域の清掃活動を行いながらウォーキングを行う「健康ウォーキング」と連携し、危険個所の点検を実施している。
- 学校、子ども見守り隊、健康ウォーキング参加者など、「地域住民の目」を大切にしながら、地域で連携して子どもたちの安全確保に取り組んでいる。



登校時の見守り活動の様子



下校時の見守り活動の様子



健康ウォーキングの様子

市コメント

- 子どもたちの安全、安心、子どもたちの命を守ることは学校、教育委員会の大きな役割であり、そのためには子ども見守り隊のように地域の皆様の協力は必要不可欠であり、小山田地区の皆様には感謝申し上げます。
- 教育委員会では、「地域と共にある学校づくり」を目指して、令和5年度までにすべての郡山市立学校に地域の皆様や保護者の皆様を委員とした「学校運営協議会」を設置しコミュニティスクールに指定する予定であり、学校の目標やビジョン、あるいは課題等を共有し、子どもたちのための取組みについて協議しています。

災害時の支援について

【熱海地区】発表者（敬称略）

熱海町行政区長会 会長 後藤 秋夫、副会長 大河原 正彌、副会長 添田 荘明

概要

- 令和4（2022）年6月11日と8月3日の2度に渡り、大雨洪水警報と土砂災害警戒情報が発令され、局地的な豪雨となり、道路冠水や土砂崩れ等の被害が発生した。
- 幸いにも、怪我等の人的被害はなかったが、日頃からの災害に対する備えが必要と実感した。

活動内容

- 今後も異常気象が続くと考えられることから、災害を最小限に止めるため、年に3回程度、住民が協力して危険箇所の点検や必要な補修を実施する等の防災対策に取り組むこととした。
- 災害時における地域での自主的な対応が重要なため、熱海町区長会としても必要な対策を検討し、支援を行っていきたい。



被災時の様子



復旧後の様子

市コメント

- 本市では、災害時の被害を最小化する減災の考え方を基本として、様々な対策を組み合わせることで災害に対する備え、迅速な対応に努めています。
- 近年の災害の激甚化、頻発化により行政主導のハード対策やソフト対策では限界もありますので、自助と共助の重要性に市民の皆様のご理解をいただくことも大切と考えています。
- 減災の考え方に基づく自助、共助による日ごろからの備えが大切であり、危険箇所の点検や修繕に平時から取り組むことは、有効な活動と思います。

町内会活動のデジタル化について

【郡山中央（北）地区】発表者（敬称略）

大島地区町内会連合会 会長 柳沼 愼、副会長 遠藤 教夫、副会長 藤澤 俊夫

概要

- ・下亀田自治会では、町内会活動における役員の負担軽減を図るため、スマートフォン等の活用を検討していたところ、市の令和4（2022）年度「町内会DX推進実証事業」に参加し、デジタル化の取組を実施している。

活動内容

- ・スマートフォンで使用できる連絡ツールアプリケーション「結ネット」をインストールし、役員間での連絡事項や情報共有のほか、協議事項の意見聴取や台風接近時の情報共有等活用を図っている。
- ・町内には、デジタル機器の操作が苦手な方もいるので、役員で操作方法のフォローを行うなど、配慮しながらデジタル化を推進している。
- ・瞬時に情報配信ができ、会議の会場確保や日程調整等の準備も不要となるなど負担軽減に繋がっており、「町内会の役員や会員にとって有益なことは積極的に取り組む」という積極的な姿勢で、町内会のデジタル化を推進していきたい。



役員説明会の様子



初心者向けスマホ講習会の様子

市コメント

- ・町内会DX推進に向けた効果や課題の検証にご協力いただき感謝申し上げます。
- ・この事業は、町内会活動にデジタル技術を活用することで、情報共有や連絡調整など役員の負担軽減のほか、災害時の安否確認など自助、共助の強化を図ることができること、町内会活動への参加率が低い現役世代の方が活動に参加しやすくなることを効果として考えています。
- ・スマートフォンを使ったデジタル化は、地域の安全を守る上で、非常に大きな武器になると考えています。これは災害時も平時も同じであり、使用に慣れておくことが必要です。

少子高齢化社会におけるまちづくりについて

【喜久田地区】発表者（敬称略）

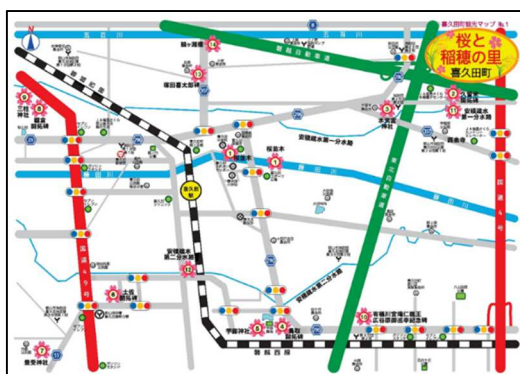
喜久田町区長会 会長 佐藤 一男、副会長 渡邊 公靖

概要

- ・喜久田地区は、堀之内・早稲原・前田沢などの古くからある地域と、東原・入之内などの区画整理事業等により新たに開発された地域がある。
- ・古くからの地域では、少子高齢化が進み、町内会活動の担い手不足など、地域コミュニティの衰退が進んでいることから、活性化のための活動を実施している。

活動内容

- ・町内の各種団体で構成する「喜久田町お結び会」は、町内の連携強化及び人口増加を目指し、誰もが安心して住み続けられるまちづくりについて検討している。
- ・「喜久田町の未来を考える会」は、観光マップの作成など、町内の魅力を発信するための活動を行っている。また、子育て世代など、新たな定住者の増加を目指し、喜久田駅東地区の開発に係る地区計画決定へ向けた取組も進めている。
- ・市内各地区においても同様に、様々な課題を抱えながらまちづくりを進めていると思うので、各地区の取組みも参考にしながら地域コミュニティの活性化を図っていきたい。



地域で協力して作成した観光マップ

市コメント

- ・町内会をはじめとした各種団体で構成される「喜久田町お結び会」や「喜久田町の未来を考える会」などを中心として、地域のまちづくりについて検討されていることは、他の地区の参考になる取組と思います。
- ・課題である町内会活動や地域行事の担い手の高齢化や後継者不足については、市としても「町内会DX推進実証事業」を通じて、町内会役員の負担軽減や現役世代の活動参加など、検証することとしておりますので、効果的な支援ができるよう引き続き検討していききたいと思います。

日和田町の現状と課題について

【日和田地区】発表者（敬称略）

日和田町町内会長協議会 会長 藤橋 大吉郎、副会長 渡邊 正

概要

- 日和田町の地域活動団体は、社会福祉協議会や保健委員会をはじめ、多数のボランティア団体があるが、コロナ禍による活動自粛で事業の継承が困難な状況の団体もある。
- 町内会についても、34 町内会があるが、加入率の減少、会員の高齢化等の問題が発生しており、担い手となる役員の不足や負担増加が懸念され、活動を継続していくための取組が必要と考えている。

活動内容

- 多様な人材が町内会などの地域活動を担っていくことが必要と考え、女性や若い方たちにも各種活動に参加して経験を積んでいただけるような環境づくりを進めていきたい。
- 少子高齢化の進展や価値観の多様化に伴い、地域社会を取り巻く環境は変化しているが、安全・安心で住みやすいまちづくりのため、町内会の原点である「向こう三軒両隣」の実現に向けて、様々な課題に取り組んでいきたい。



登校時の見守り活動の様子



地域の防犯パトロール活動

市コメント

- 子どもたちの安全、安心、なにより子供たちの命を守るためには、地域の力をお借りできることは大変重要なことと考えています。
- 教育委員会では、「地域とともにある学校づくり」を目指して、令和5年度までにすべての郡山市立の学校に学校運営協議会を設置し、コミュニティスクールとする予定です。地域の皆様や保護者の皆様に委員として各学校の目標やビジョン、課題を地域の皆様と共有し、子どもたちのために協力できることを協議していただいています。
- 今までのような町内会単位での考え方だけでなく、登下校の見守りについても通学路の中にどの町内会があり、地域全体でどのように見守るのかというような視点もこれからの地域活動には必要なものと思います。

富久山町梅田地区の防災に係る市との意見交換について

【富久山地区】発表者（敬称略）

富久山町連合町内会長連絡協議会 会長 杉岡 正夫
 梅田地区連合会 会長 熊倉 信一

概要

- 令和元年東日本台風は、梅田地区において、過去に経験したことのないほど多くの家屋が浸水するなど甚大な被害が発生したことから、地域防災について知る機会を設ける取組を始めた。

活動内容

- 阿武隈川や逢瀬川などの堤防整備や河道掘削、市管理の準用河川の整備、下水道事業による雨水貯留施設の整備、「ハザードマップ」の改訂など、国、県、市により防災減災対策の推進が図られている中、梅田地区における防災について、市の関係各部署を招き意見交換会を開催した。
- 意見交換会は、梅田地区における防災対策の現状や、令和元年東日本台風通過時の状況の確認、また、市などが行う防災・減災対策の説明を受け、今後の地域防災について学習する場となったことから、今後も継続して、防災・減災の対策を考える場を設けていきたい。

市コメント

- 本市では、減災の考え方を基本に、様々な対策を組み合わせることで災害に備えて対応しています。
- 梅田地区連合会の皆様方の意見交換会の取組みは、自助、共助、意識の向上に繋がる取組みであり、今後も知見等を共有したいと考えています。
- 水害の大きな原因である阿武隈川の水位上昇を減少させるため、河道掘削や遊水池整備など、国、県、市が連携して治水事業に取り組んでいるところです。
- ハード整備と合わせまして、地域住民の皆様には、防災情報の収集や早めの避難行動など、ご協力をお願いします。
- 災害対応についても、「行政サービスから行政サポート」という風に国の方針が大きく変化しております。その際、重要となるのが学校区によるゾーニングであり、中学校校区を中心に組み立てていくことが望ましいのではないかと考えています。

土棚さくら会(いきいき百歳体操の実践)について

【西田地区】発表者（敬称略）

西田町区長会 会長 松崎 昭、副会長 岩谷 豊一
土棚さくら会 代表者 鈴木 八代子、代表者 岩崎 孝子

概要

- ・土棚さくら会は、平成 30（2018）年4月に土棚地区の有志で設立し、高齢化社会の課題である介護予防を目的に健康づくりのための活動を実施している。

活動内容

- ・「いきいき百歳体操」、「かみかみ百歳体操（口腔機能の保持）」、「しゃきしゃき百歳体操（認知症予防）」を実施するほか、「棒を使った体操」を毎週木曜日に行っている。
- ・講師を招いて最新の健康に関する情報の収集にも力を入れている。
- ・市主催の健康に関する各種イベント（ウォーキング、ハイキング、ミニ登山）に積極的に参加するなど、地域住民への啓発にも繋がっている。
- ・市表彰は、令和元（2019）年2月に「通いの場普及推進大会表彰」、令和3（2021）年度に「まちづくりハーモニー賞」を受賞している。



いきいき百歳体操の様子



土棚地区の有志により設立

市コメント

- ・2040年には、団塊ジュニア世代の方々が65歳以上の高齢者になることから、高齢者人口がピークとなると予想されています。
- ・本市をはじめ、全国の自治体では、住民の方が可能な限り住み慣れた地域で生活を継続できるよう地域包括ケアシステムの構築に取り組んでいるところです。
- ・本市としても令和4年11月10日から「心と体の健康応援サイト ココカラこおりやま！」というサイトを立ち上げ、健康に関する様々な情報を紹介していますので、ご活用願います。

高齢化社会における地域活動について

【中田地区】発表者（敬称略）

中田町内会連絡協議会 会長 吉田 善守、副会長 伊藤 丈男、
庶務会計 橋本 敏明

概要

- 中田町は 65 歳以上の高齢化率 42.2%（令和 4(2022)年 1 月 1 日現在）と高いため、各種団体が一体となり、高齢者支援活動に取り組んでいる。

活動内容

- 健康増進のための「いきいき百歳体操」や「いきいきサロン」を開催するとともに、一人暮らしの高齢者に対しては、配食サービスや友愛訪問を実施し、安否確認と見守り活動を継続して実施している。
- 中田地区第 2 層協議体では、有償ボランティア事業「たすけあい活動 助っ人隊出前要請講座」を地区社協、民生児童委員協議会を対象に開催し、3 名が中田地区の助っ人隊に登録し、高齢者の日常生活の支援活動を行っている。
- 買い物等の移動手段に不安を抱く高齢者のために、令和 4（2022）年 9 月に町内会等の各種団体に対して「中田地区乗合タクシー」を活用促進のため、説明会を開催した。



配食サービスの様子



乗合タクシー説明会の様子

市コメント

- 乗合タクシーは、主に路線バスが廃止され、郊外を中心にタクシーを利用した自宅と生活施設（スーパーや病院）周辺や交通結節点（駅やバス停）を結ぶ乗り合い型デマンド交通として、令和元（2019）年 6 月からスタートしました。
- 令和 4（2022）年 11 月現在、日和田地区、熱海地区、田村町、西田町、安積町、三穂田町、逢瀬町、喜久田町、中田町、片平町に導入現在、市内 10 地区 11 エリアで運行している状況で、10 代から 80 代まで幅広く利用いただいている状況です。
- 地域における交通手段の維持確保は、少子高齢化や運転免許証の返納の増加、交通事業者の運転手不足など、厳しい状況にあります。

東部地区における歴史や史跡等の伝承活動について

【郡山中央（東）地区】発表者（敬称略）

東部地区町内会連合会 会長 増子 哲也

概要

- ・東部地区は、「旧市内」の阿武隈川の東に位置する地区で、田村神社（阿久津町）や高屋敷稲荷神社（白岩町）など、史跡等が点在するほか、昔からの言伝えなども数多く存在している。
- ・東部地区町内会連合会では、地域の歴史等に詳しい方々の高齢化に伴い、地域の誇りを次世代へ伝承する活動に公民館と連携し取り組んでいる。

活動内容

- ・公民館事業として、東部地区の遺跡や寺社仏閣等をウォーキングで巡りながら歴史等を学ぶ「歩け歩け大会」や郡山市の歴史講座を開催している。
- ・地区の町内会と協力し、歴史や遺跡等の情報共有や資料収集を実施しており、今後は歴史勉強会を開催して知識を深めながら、資料の検証及び整理を行いたい。
- ・多くの方に東部地区を訪れるきっかけになるよう地域の魅力を高め、地域活性化が図られるよう情報発信の工夫にも取り組んでいきたい。



田村神社の境内



歩け歩け大会の様子

市コメント

- ・地域の歴史や史跡等を地域活動の中で自分たちの地域を次の世代、ほかの地域に伝え広める取組は地域の一員であることの意識付けなど地域の結びつきを強める取組と感じました。
- ・活動の特徴的な点としては、①社会活動の拠点である公民館において、自分たちも学習しながら講座等を開いている点、②「歩け歩け大会」が歴史と健康を結び付けた事業活動である点、③各町内会との協力で横展開を図っている点、④更なる横展開として地域の外に向けての展開も目指している点から、地域同士の結束力強化や地域活性化に繋がる工夫された事業と感じました。
- ・今後一層こういった活動を継続、そして発展させていくためには、デジタル化への対応も一つの手段であり、より効果的に東部地区を知っていただけるものと思います。

守山小学校子ども見守り隊、谷田川・栃山神地区への 産業廃棄物処分場について

【田村地区】発表者（敬称略）

田村町自治会 会長 猪俣 昭彦、副会長 鈴木 清司、副会長 坂倉 英男、
会計 力丸 庄司

概要

- ・守山小学校子ども見守り隊は、平成 23（2011）年 10 月に青少年健全育成推進守山地区協会議会を中心に学区内の各種団体と小学校が連携して設立し、児童・生徒の安全を脅かす事件・事故等の防止活動に取り組んでいる。
- ・谷田川地区では、やたがわ環境を守る会と協力し、住みよい地域をつくるため、地区内の環境活動に取り組んでいる。

活動内容

- ・守山小学校子ども見守り隊は、登下校時のあいさつ運動や通学路の危険個所での見守り活動のほか、通学路の草刈りなどを実施している。
- ・守山小学校の先生が中心となり「守山小学校地域安全マップ」を作成し、特に危険な個所には町内会と協力し、注意喚起の看板を設置している。
- ・やたがわ環境を守る会では、非耕作地、市道、農道の除草や側溝の堀上を行っている。
- ・谷田川行政区では、宇津峰山の美化活動として、岩瀬農業高校の生徒とやたがわ環境を守る会と協力して「エビネラン」等の苗木の植付けを行っている。

市コメント

- ・子どもたちの安全、安心、なにより子供たちの命を守るために、地域の力をお借りできることは大変重要なことと考えています。
- ・見守り活動については、地域の皆様に町内会活動を通じてご協力いただいておりますが、これからは町内会単位の視点に、学校区毎の視点も取り入れることも考えています。
- ・環境活動は、地域で生活されている方々が主体となって展開していただくことが継続的に実施していくうえで、重要と感じます。
- ・やたがわ環境を守る会の方々や岩瀬農業高校の生徒さんなど、横の広がりや地域活性化の視点も踏まえ、地道に活動をされていることは心強く感じます。
- ・環境活動は、我々が生きている限り必ず廃棄物は排出されるので、日常生活で如何に環境を汚さないような産業や家庭生活の構築が大切と考えています。